

禽舎訪問 2018年6月

今回は、大会実行副委員長の前野さんから首輪雀がだいぶ取れている話を聞いてお邪魔してきました。



禽舎は自宅マンションの屋上に禽舎があり高級フィンチを中心に飼育をしていました。



自作の飼育箱はよく考えて作ってあります。前野さん曰く高級フィンチは籠の中にいかに手を入れず飼育をするかが大事だそうで、箱巣は外付けになっています。



自育中の首輪雀の親子、このペアは今年3腹目ということです。
繁殖ケージは90×60にペア飼いで他のペアからも雛が取れて追い込みは何ペアも飛んでいました。
全ての鳥にオリジナルの足輪を入れて個体識別をしていました。見習いたいですね。
私も驚いたのですが追い込みカゴにいる首輪雀は2世代の鳥達でその落ち着きようは十姉妹並で見ている目の前で求愛行動や巣草を運んだりしていました。
2世代目は、この環境で育っているのでこの子達なら飼育箱45×45でも自育が可能なのではと次はチャレンジするとのことです。



首輪雀の配合餌です。その他にエッグフード、粟玉、虫（特に蛹）

その他にコキン鳥、キンセイ鳥、アミメ鳥、紅雀等 写真はキンカ鳥のイエロービークと美声インコのオレンジシナモンオパールリン。



最後に首輪雀を系統繁殖出来るのではないかと期待せずにはいられない感じでした。

取材 文・写真 広報部長 荻原慎一